刀正當に揮へ。洞庭を驅り出。地ふ滅尻を踏踰こ。縦横無碍なる薙廻る。
明智の兵士數百殘看て。こハ林ふ
を。數の紋羅ると齊しく。こんなし。破竹。旋風。竜骨車。大波小濤激岩漏極
作し薙落し。薙刀の双ん動くだけ。肩係腕嬢さびて。當る様よ
揮きなれた。瞬隙際に十四五騎を。天足地頭よ礼殺せ。そのかる多數に歳
はけなれば。當の歌兵あらい雑て。門外へ颯と霹靂る様。猶も進て烈戦
も。落るところに山本三九郎つ。秀吉。信長公を那様ふ看あげ。嬉や咽
まに撃まゐらせん。と電の如く走り。を切を。進まず。そのと阿能の局。正夫面
待と。呼蒐つも。韓竹破ふ薙着れへ。飄然と避て落来る様頭を。鎗ふて
撃へ着入く。利脚拳ると見えなりし。臀墓地築せく跑僵る様。阿能
も驚さび。短刀脱撃。裟ふの當を勝人とする。素より身軽さこそ。つ

曰五尺ふく跳揚れば。阿能の後へ廻り
寄て。俛る刀を山本ふ
殺と突貫れ。若といふ聲をなごりふく。労しげ猶ぶる。備右大将信
長公へ。長戟をつく殺の様よりふ。済登る様。敵陣へ突陥し。左ふ
挺を右ふ裏へ。突声嗄ど凄こと眼光眼まび瞬こうて。面貌の憤色溢
るぬく。獅ふま奮迅の猛威を顕し。猛犬のかさ礼の暴風に巻るかと
看てやれば雲の疾雨を駆るより烈しく。拗ぐわどふ掬わどふ。洞係廻る
楓も。微塵に裂て撃く棘く。城よ号や扶桑なる六十餘箇の戦國ゟそ
の天が下ふ冠る君の。運傾る最後の決戦那やとぶり凄ふく。剣
ふ係く揮さあふて。右の脛ふ鎗痍を二箇所まで負せのひ神も震
も血ふ浸り。白衣変じて紅の。斑深とぞ看る様。蘭丸明智が勇士ぶ。